

ヴェーンカタラーマン博士 東京センターでの質問に対する回答 その2

問い：アシュラムの本屋には、（バガヴァッド ギターの）ポケットサイズの英訳版が売られていて、その中には、第12章はスワミ御自身によって翻訳されたものであると書かれています。これは正しい情報なのでしょうか？

その本によれば、オーストラリアで行われたサーダナ キャンプで、ヒスロップ博士が、「これはスワミが1984年のある御講話の中で、ギターの第12章をこのように翻訳されて、その時スワミは、『皆さんはバガヴァッドギターの第12章を暗記するべきです。この章に含まれているメッセージによく注意して、これらの教えを皆さんの日々の生活の中で実践しなさい』とおっしゃいました」と話されたそうです。私はそのような御講話を見つけることが出来ませんでした。また私は、スワミがバガヴァッドギターを英語に翻訳されたという話も聞いたことがありません。もし博士がこの件に関して、何か情報をお持ちであれば、私たちにお聞かせ願えないでしょうか？

回答：この本は、私が1995年にニュージーランドを訪問した後に書いたものだということから話を始めるべきだと思います。私はニュージーランドの一人の帰依者と長い話し合いをした後に、翻訳に携わるようになりました。実際、この本の初版は、ニュージーランドのサイ オーガニゼーションの出版局から出版されたもので、その国のダグラス ソンダースという印刷機を持っている印刷会社が、無料で印刷してくれたものです。ダグラス社は奉仕の一環としてこれを印刷したのです。その後、シュリ サティヤ サイ ババ出版協会（SSBPT）が著作権を譲り受けたのです。

引き続き私は、「神のメッセージ」と題する長い本を書きました。この本もまた、ニュージーランドで初めて出版されて、その後、再版のために、SSBPT（シュリ サティヤ サイ ババ出版協会）が版権を譲り受けました。このどちらの本の中でも、私は自分の名前を出すのを控えました。

次に、1984年に行われた一連の御講話についてですが、これらは素晴らしい御講話で、まだ正式な翻訳本は出版されることがありません。ところが、アル ドラッカーという名前の米国人が、録音テープのコピーを入手して、テルグ語と英語を知っている人と一緒に座ってそのテープを聞き、一連の御講話のテープ全体を英語に翻訳するという作業をしたのです。とはいうものの、アルは一行ごとに正確な翻訳を紹介することはしませんでした。代わりに、彼はその意味と精神を出来るだけ忠実に保ちながら、細かい注釈を加えながら紹介したのです。

この本はサイ タワーによって出版され、より最近の改訂版も入手することが出来ます。それは西洋の読者を対象として作られた本であり、非常に良い仕事が為されていると思います。補足として付け加えますが、我々はこの時の録音テープの全巻を入手することが出来たので、約一年前に、私自身がラジオサイの同僚の一人と共に、これらの有名な1984年の一連の御講話の翻訳を始めました。私たちはまず、録音テープの中の英語の翻訳を取り除いて、すべての御講話をテルグ語のみにしました。これは非常に時間のかかる、骨の折れる仕事でした。次に、同僚と私が御講話

を一行ずつ聞き、時には同じ行を数回聞いて翻訳をします。こうした微調整と仕上げの作業は、もともとの御講話の5~6分をカバーするのに、一時間くらいかかりました！ 私たちは少しずつこの作業を進めて、34回の御講話の11回分を終えることが出来ました！ いくつか他の作業が必要になって来て、私はそれを中断しなければなりません。それがしばらく前のことで、その後、今回の海外視察のツアーが来たのです。また戻って、この作業を完成するための時間を見つけなければなりません。私は、それが出来ることを望んでいます。

さて、質問に関してですが、私がギター翻訳に携わるきっかけとなったニュージーランドの友人は、アル ドラッカーのことを話してくれたばかりでなく、特別なものであるという、第12章の翻訳文に関する話もしてくれました。彼によれば、それはヒスロップ博士から入手したもので、ヒスロップ博士が、それはスワミ御自身から来たものであると仰ったそうです。それは、個人的なインタビューでのことであつたかもしれませんが、私はそれについては知りません。私の書いた本にはヒスロップ博士の言葉からの直接の引用が入っていることに気が付きましたが、それは私がそこに入れたものだと思います。ヒスロップ博士がどこでそう言ったかを尋ねられると、「知りません」と答えるほかはありません。博士の言葉の出所を探してみましよう。ここで私に言えるのは、次の二点です！

1. 第12章と第2章は非常に重要な章で、スワミは、1984年に行われた一連の御講話では、この二つの章だけに焦点を当ててお話をされました。
2. アシュラムで売っている本の第12章の英訳文は、他の英訳文と比較してチェックしてみましたが、訳文の一語一語にいたるまで非常に正確です。それは、原文の一語一語を逐語的に翻訳したものではありませんが、私の考えでは、それは非常に美しく、最高の翻訳文の一つであると思います。それは間違いなく、神のインスピレーションに基づいて訳されたものに違いありません！

また、「ポケット ギター」に紹介されている第12章の訳文は、先ほど言及したニュージーランドの友人から入手したものです。

サイの活動に関する質問

問い： 日本のサイオーガニゼーション (SSOJ) では、若い帰依者たちは西洋文化の影響で、あるいは、世の中での活動を通じて身に付けた現代的な感覚によるものかもしれませんが、しばしば、スワミの御教えに沿わない行動計画を提唱することがあります。教授御自身がこのような若者に出会ったときは、いつもどのように彼らを導いていらっしゃるのか、お聞かせ願えないでしょうか？

回答： これは地球規模の問題であり、インドも含め、あらゆるところで起きています。実状は、一つひとつのケース毎に異なっており、それぞれ異なった扱い方

が必要です。しかしながら、それを扱う「戦略」には、次に挙げるようないくつかの共通点があります。

1. 第一に、私たちは問題の相手と接するときは、慈愛の心を持って話すことが必要で、上から見下した話し方や、「ルールブック」を読むような話し方をしてはなりません。
2. 第二に、その答えはスワミへの愛を中心として、その周りに織り成されたものでなければなりません。しばしば若い人々は、スワミが何を支持しているのかわからなかったのかを理解せず、スワミの様々な発言の理由を理解していません。しかしながら、彼らはスワミを愛しています。そのことを心において、私たちは、特定の問題について話す前に、忍耐強く、彼らを全般的に教育しなければなりません。
3. この問題に対する答えは、霊性（魂に有益なこと）と、文化（国に有益なこと）と、個人の規律（個人に有益なこと。個人はスワミの小宇宙であって、スワミに戻る準備を整えるためにこの世界に生を受けた存在です。これが必要なのは、幸せは神との一体性にほかならないからです！）がデリケートに混じり合ったものの中に見出されます。
4. 助言を与える時は、現代社会のすべてを見下すようなことがないように注意しなければなりません。私がオーストラリアを訪れていた時、一人の若者からフェイスブックやツイッターに関する質問を受けたことがあります。私は、次のように答えました。「私自身はこうしたソーシャル メディアを使ったことがないので、直接的な知識はありません。しかし私は、若い人々が盛んにソーシャル メディアを使っていることを知っており、状況によっては、ソーシャル メディアが役に立つ場合があることも知っています。私はまた、ラジオサイのスタッフにも、それを使っている人々がいることも知っています。大事なことは、私たちがテクノロジーに支配されてしまってはならないということです。今起きているのは、人間が科学技術に支配されている状況です」。

次に私は、常々スワミが、「人間は科学技術の主人であるべきで、その逆であってはならない」、と仰っていたことを指摘しました。悲しいことに、今起きているのは、科学技術が人間の主人となっている状況です。それが今起きていることです。実際、テキスト メッセージを送るために親指を使い過ぎる人々がいるので、新しい整形外科的な問題が発生しているのです！そして、実に多くの時間の無駄も生じています。インドのある教師から聞いた話ですが、彼女が受け持っている一人の少年は、毎日 400～500 のテキストメッセージを交換しているということです。

- 次に、注意力散漫の問題があります。私は昨日、アメリカのラジオ放送を聞いてショックを受けました。アメリカの一人の数学教師が、生徒の注意を引くためにラップ音楽を歌わなければならない。ラップ音楽を歌わない限り、生徒が注意を向けないというのです。これは深刻な問題です。ミネアポリスに向けて飛んでいた飛行機の二人のパイロットが、ラップ トップ コンピュータに夢中になっていたために、飛行場を通り過ぎて、150km 先まで飛んでいたそうです！ 航空管制官がそれに気づいて、飛行機を呼び戻したということです。

携帯電話の使い過ぎで起きている一つの深刻な問題は、十代の若者たちの注意力の持続が非常に短くなっていることです。これは深刻かつ危険な問題です。今日のハイテクの世界では、非常に多くの仕事が、注意力を必要とします。神経外科の医師、飛行機のパイロット、航空管制官、等々、その職種を列挙すると、長いリストが出来ます。車の運転でさえも、もう単純なものではなくなっています。車が複雑になり、交通用も多くなり、スピードも速くなったからです。ですから、注意力持続時間が短ければ、人々はどのように生きていけるでしょう？ 市場の力によって、こうしたライフスタイルが、我々に押し付けられています。実際、私たちが食べる物から始まって、私たちの読むものや、テレビで見るもの、私たちが買うもの、私たちが訪れる場所、といったものにいたるまで、あらゆるものが、一つのことしか関心のない、隠れた市場の力による影響を受けています。彼らは、我々に多くの選択肢を提供しているかのように見せて、実際は、我々を洗脳して、我々の思考をプログラムし、操作しているのです。彼らは、我々が自分は独立した人間であると信じるように仕向けていますが、彼らの期待に添うように我々を追いやっているのです。あらゆることが、ひそかに他者の手でコントロールされているという状況を容認してもいいものなのでしょうか？

今日の若者たちは知的で優秀な頭脳を持っています。彼らは、いくつかのことに長けていますが、知恵はそれとは別物です。優秀さは、個人にとって役に立つかもしれませんが、社会は知恵を捨てると成り立たなくなります。優秀さは、権利を主張するように促しますが、知恵は私たちの責任に気付かせてくれます。

私たちの身体と心は、市場の抵当に入れるために存在するものではありません。市場はお金のために我々を利用しますが、お金が得られると、何の配慮もなく我々を捨ててしまいます。そうです、我々は一人の個人として、自分の頭で物事を徹底して考えることが必要です。それこそがお釈迦様が教えたことであり、世界各地の賢者たちが教えたことです。

若者たちを導くための特別なセッションを実施する必要性が非常に高くなっています。これは急を要する事柄で、日本が世界に模範を示すことが出来れば素晴らしいと思います！